枚方市と枚方市職員労働組合の団体交渉の要旨

1. 日 時 令和7年3月6日（木） 午後7時40分～午後8時50分
2. 場 所 職員会館大会議室
3. 出席者 組合側：執行委員長以下約20名
市 側：総務部長、総務部次長、人事課長、職員課長、
教育政策課長、上下水道局総務課長、市立ひらかた病院総務課長、
書記（人事課・職員課 課長代理）
4. 課 題 「2025年国民春闘統一要求書」に基づく交渉（1回目）

<交渉内容要旨>

I. 基本姿勢について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法遵守の姿勢について、改めて確認をしたい。 ・ 賃金、労働条件については、これまでどおり労使合意が基本であることに変わりはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでと同様、憲法遵守の立場に変わりはない。 ・ 労使合意が基本であると考えている。

II. 職員・労働者の生活を守る要求について

組 合	市
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の物価高騰の状況をみると、職員の生活に大きな影響を与えており、全体的な給与水準の引上げが必要であると考えている。年末に賃金改定はあったが、わずかな引き上げにとどまった中高年層の賃金の見直しが特に必要である。また、再任用職員については一時金等の見直しが必要と考えるが、どのような認識か。 ・ 保育現場は、正職員と非正規職員でクラス担当をしている。正職員が少ないため、正職員に負担がかかり、時間外勤務も増えている。保育現場は疲弊しており、若い職員の離職につながっているのではないかと考える。働きやすい環境として、増員が必要であると考えているが、年度途中での採用などについて、どのように認識しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の物価上昇を受けた社会情勢の変化は認識している。今後、人事院勧告等の動きを注視し、対応していく。また、再任用職員の給与制度は国公準拠を基本としており、独自のプラス改定は難しいが、機会をとらえて要望を行うなど、国へ働きかけていく。 ・ 現時点では、年度途中の採用は、予算など課題があり、難しい。引き続き人員確保の手法などについて検討していく。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計年度任用職員について、今後採用する者に関しては、公募によらない再度の任用時における上限回数が撤廃される。この取扱いを踏まえ、現在在職している職員についても、試験は廃止されるべきと考えるが、どのように考えているのか。 ・ 親族死亡休暇について、実態に即したものとなるよう見直しが必要であると考え、検討状況はどうか。 ・ 介護離職を防ぐためにも休暇制度を拡充し、介護と仕事の両立支援を進めるべきと考えるが、見解を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在職者については、職員間の公平性の観点なども踏まえ、次期更新時は公募試験の対象としている。 ・ 親族死亡日から、葬儀日まで一定の日数を要することが多く見受けられるなど、実態を踏まえ、見直しに向けて検討している。 ・ 法整備などの状況も踏まえ検討していく。
---	---